

琉球大学 案内 2024
教育学部





琉球大学教育学部案内 2024

目次

琉球大学千原キャンパス	3
教育学部施設紹介 おすすめスポット	5
おしゃべり 学生×学部長	7
教育学部の概要	9
学校教育教員養成課程	11
カリキュラム・取得可能な免許等	12
教育実習	13
専修紹介	
教育実践学専修	17
子ども教育開発専修	18
国語教育専修	19
社会科教育専修	20
数学教育専修	21
理科教育専修	22
音楽教育専修	23
美術教育専修	24
保健体育専修	25
技術教育専修	26
生活科学教育専修	27
英語教育専修	28
特別支援教育専修	29
Q&A	31
北海道教育大学釧路校との交換留学制度	33
卒業後、さらに学びたい・免許を取得したい方へ	35
受験生のみなさんへ（卒業生からのメッセージ）	36

琉球大学 千原 キャンパス

機械・工具が揃うものラボ

工学部所属の学生さんたちなら、さまざまな機械・工具を自由に活用できる施設があるんだよ。楽しそう！

学内にあるさまざまな史跡

特に農学部敷地内には按司墓、五連墓、イシグスク、ボージウシューヌカーなどの史跡が多く存在するのよ。

入口は3カ所。信号も？！

大学内に入る入口は3カ所あります。ループ道路には信号もあります。車を運転するときは速度を守ってね。

宜野湾口 (北口)



ぼくの名前は**キジムン**！

学内にあるガジュマルの樹をすみかにしているよ。ときどき学生の姿に変装して、授業に参加するのが楽しみなんだ。赤毛の男の子がいたらぼくかもよ。

千原馬場、果樹園跡地

乗り手の振る舞いや馬具の華やかさなども競い合った琉球競馬が行なわれた馬場。その跡地のすぐ近くは、かつて果樹園が広がっていたんだって！

琉

琉球大学は、沖縄が日本本土復帰する前の1950年に首里城跡（今の沖縄県立芸術大学の場所）に開学しました。首里城復元事業が本格化したことを受け、現在の「千原キャンパス」「上原キャンパス」に移転。農学部の農場も含めると、両キャンパスをあわせた敷地はなんと、1,262,785㎡にもなります。教育学部がある千原キャンパスは、宜野湾市、中城村、西原町の三市町村にまたがります。3カ所（通称：北口、東口、南口）の入口があり、通称「ループ道路」と言われる周回道路と信号機も備えられています。教育学部は、大きな千原池を挟んで南側に位置し、隣には人文社会学部・国際地域創造学部があります。池の北側には、工学部と農学部、東側には理学部、共通教育棟、図書館、中央食堂等があります。元々は、中城村津覇集落があった場所なので、大学敷地内にはさまざまな史跡や拝所なども残っています。本ページでは、琉球大学に潜むキャラクターたちが、魅力的な施設やおすすめスポットを紹介してくれます。琉球大学にあるたくさんの謎を楽しみつつ、お散歩したり見学したりして、それぞれのおすすめスポットを見つけてみてくださいね！

琉球大学附属図書館

本を読むシーサーがお出迎えしてくれるわよ。図書館職員コラム「きじむんのどう〜ちゃいむに〜」は、琉大のいろんなトピックが紹介されていて、ジワジワくる面白さ♪

中城口
(東口)

日時計をさがしてみよう！

真理と正義と平和を愛する青年達が世界へ羽ばたいていくようにと願いがこめられた日時計があるのよ！

アタシの名前は**パタリ**

教育学部のモモタマナの樹がすみかよ。
夜行性だから、夜のおさんぽをしながら、
学内をパトロールするの。琉球大学は
いろんな動植物が共存していて、
居心地がいいわ♡



このエリアが教育学部です！

西原口
(南口)

かつて川だった千原池！

広大な敷地を誇る琉球大学は、緑がとても豊かで千原池と言われる人工池もあるんだぞ。この大きな池は、かつては川だったんだぞ。千原池にはたくさんの鳥がやってくるぞ。大きなドングリが実るオキナワウラジロガシやイジュ、ヤマモモも見られるんだぞ。

琉大の博物館「風樹館」は必見！

沖縄の自然や歴史・文化に関する収蔵品が17万点。動植物にとっても詳しい先生もいるんだぞ。いろんな動植物が観察できるビオトープもあって、無料で誰でも見学ができるから、一度は足を運んでみるといいぞ！！



わしの名前は**リュウゾウ**。

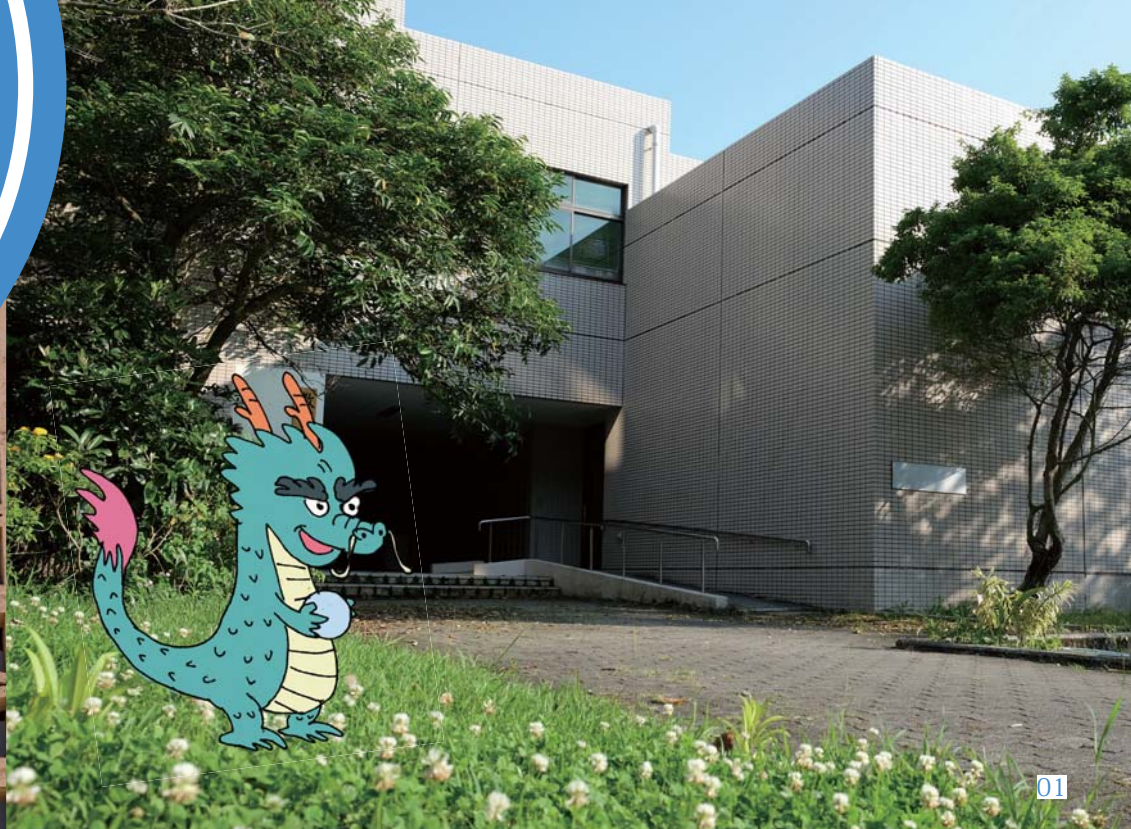
千原池がすみかだぞ。

池には、夏になるとホタルがやってきて、
とてもにぎやかだぞ。

球陽橋をわたる学生たちがキャンパスライフを楽しんでいる様子を眺めるのが楽しみだぞ。

つぎは、教育学部のおすすめスポットをご紹介します！

教育学部 施設紹介 おすすめ スポット



01: 教育実践棟

教育学部正面玄関の真向かいにある建物で、琉球大学全体の教職課程（教員免許取得カリキュラム）に関わる先生たちの研究室があるぞ。1階には広い教室があって、教職関係の授業や教員採用試験対策の各種セミナーなどで使用されることも多く、教育学部生は本当によくお世話になるんだぞ。

02: 琉球大学教育学部附属小学校 (a)・中学校 (b)

地元では「りゅうふ」の愛称で呼ばれているぞ。教育学部から徒歩5分くらいで行ける附属学校は、全国でも珍しいそうだ。ここで3年次の夏に行う教育実習は、教育学部生にとって4年間の最大の山場かもしれない。実習だけでなく、普段の授業



でも参観に行ったり各種研究会に参加したり、馴染みの深い場所なんだぞ。

03: ビニールハウス

メロン、菊、玉ねぎ、ジャガイモなど、いろんな食物を育てる栽培実習で活用されているよ。さあ、どこにあるでしょうか？探してみてね！！

04: 技術教育棟

『木材加工実習室』『金属加工実習室』『電気実験室』など、さまざまな加工実習を行うための部屋があるよ。



03



06



04



07



05



08

05: 音楽棟

大人数での音楽関連授業や活動に適した『演奏室』や一人一台電子ピアノが使える『ミュージックラボラトリー』などがある施設だよ！

06: 工芸棟

穏やかな時間が流れる工芸棟。織機・道具類が並ぶ「織室」、染め実習を行う『染室』。施設周囲では、染色に使われる植物の栽培もしているよ。

07: 彫刻・陶芸棟

『彫刻室』と『陶芸室』に分かれている彫刻・陶芸棟。表現が

多様化している現代、さまざまな制作活動がここでは行われているんだよ！！

08: モモタマナの樹

教育学部のシンボリックな存在のモモタマナの樹。学生さんたちの待ち合わせの場所にもなっているのよ。

みんなで集まってお話ししながらお昼ご飯を食べたり、困ったり迷ったときにここに来る学生さんもいるんだって。夜になると、私たちも集まっておしゃべりしたりディナーをしたりしているわ。

おしゃべり 学 生 × 学部長



部長が教育学部4年次のおふたりにインタビュー！みみさんとりょうまさんの本音トークをお楽しみください。



うえちりょうま
上地竜馬さん
中学校教育コース保健体育専修4年次
(沖縄県立那覇国際高校出身)
県内中学校教員志望

はぎのあつみ
外富みみさん
小学校教育コース子ども教育開発専修4年次
(沖縄県立与勝高校出身)
県内小学校教員志望

はぎのあつこ
萩野敦子先生
国語教育専修所属
2020年4月から教育学部長

なぜ琉大教育学部のその専修を選んだの？

はぎの：まずは、教育学部を志した理由を教えてください。

りょうま：中学時代からスポーツに関わる仕事をしたかったし、陸上や駅伝を通して先生方にお世話になったので、自然と保健体育の教員を意識するようになりました。高校に入って、琉大の教育学部に保健体育の教員を養成する専修があることに気付いて、「ここしかない！」と思いました。

みみ：私は幼い頃から小学校教員になりたくて、高校時代に琉大のオープンキャンパスで学校教育専攻の説明会（注）に参加しました。先輩の皆さんがキラキラしていて、「ここに来たい」と強く感じました。入学後、2年次の専修選択では「学校をとりまく地域のフィールドを通して子どもを理解する」というコンセプトの子ども教育開発専修を選びました。子発は幼稚園免許を取りやすい時間割が組まれていましたし。

はぎの：小・幼の免許を取るのね。りょうまさんは？

りょうま：卒業後は中学校教員になりたいと思っていますが、免許は小学校も取るつもりで頑張っています。

印象に残った授業は？

はぎの：大学生活で印象に残っている授業はありますか？

みみ：2年次前学期の「子ども学フィールドワーク」（子発の専門科目）です。3つのフィールド選択から私が選んだのは「日本語教室」。外国にルーツがあり日本語が喋れなかったり、生活場面ではペラペラ話せても学習場面では教科特有の用語が難しかったり、そんな子どもが通級する公立小学校の教室です。この授業での活動は全て学生自身が企画するんです。たとえば、七夕を取り上げた実践の授業を、コロナ禍だったのでオンラインでやりました。七夕は日本の文化ではあるけれども外国にも

七夕の風習をもつ国があるので、それとつなげてみたり、短冊に書くお願いの文の型「～ますように」というのを意識しながら、日本語で表現する活動をしたり。オンラインで、どうやって子どもたちを楽しませられるか、すごく考えて。試行錯誤の連続でしたが、すごく達成感がありました。

りょうま：ぼくは、保健体育専修の専門科目「器械体操」です。求められるレベルがほんとに高く、たとえばマット運動はバク転まで出来なきゃダメだし、鉄棒は体操競技で使う本格的な高さの鉄棒なんです。

はぎの：内村航平さんがやっているみたい（笑）？

りょうま：体操選手みたいに車輪をやったらボーナス点が付きそうです（笑）。そこまではいかないけれども、とにかくあの高さで技をするのは大変だから、先輩が補助指導に来て、コツを教えてください実践して見せてくれたりするんです。そこで先輩との交流もできて。単位を取得してからは、ぼく自身が教える立場になって、「体育の先生ってこんな感じなんだな」と感覚的につかめたのが、大きかったです。難度は高かったけれども、この授業をクリアしたことで、将来生徒にも教えられっていう自信もつきましたね。

みみ：体育館で見たことがあるけど、鉄棒ほんとに高く！

りょうま：座学の「運動学」も印象的。運動学をどう教えるかという内容のテキストを予め読んでから、出席するんです。「アナログパワーポイント」と呼んでいるB4の紙に重要だと思うことをその場で書き込みながら発表するから、頭はフル回転しっぱなしです。1時間半の授業時間喋りどおしで、ほんとに疲れますけど、終わってみると楽しかったという気持ちが残ります。自分の伝える内容と友達の伝える内容、自分の伝え方

と友達の伝え方、それぞれ結構違って、「いろいろな考え方やり方があるんだな」と実感できるのも面白いです。

授業以外の活動の思い出は？

はぎの：授業以外で頑張ってきた活動はありますか？

みみ：特に今の自分に大きな財産となっているのは、3年次の夏頃から始めた、母校の小学校での学習支援のボランティアです。教育実習とは違っていろんな学年に入らせていただくので、それぞれの学年の子どもの姿に触れることができます。子どもって「え？こんなとこで、こう動くの？」という想像もしなかった行動に出て、驚かされることばかりですけど、そこでの先生方の対応を見て「ああ、そうするんだ」と初めて知ることが多くて、ほんとうに勉強になります。今年は年度初めから1年生に貼り付いています。初めて小学校に通う子どもたちに学校を嫌いになってほしくないという願いが先生方にあるので、子どもの心を引き付けるいろいろな工夫が見られて、面白いなって思いながらも、とても学びになります。

りょうま：ぼくはずっとバイトで塾の講師をやっています。小学生から高校生まで、いろんな年代の子がいる塾なので、発達段階によって子どもは違うんだって実感します。中学生や高校生だと、定期試験や受験を意識するから、「これは目標を達成するためだ」「これは将来のためだ」という言葉もすんなり受け入れてくれるんですが、小学生に関しては、ずっと集中もできないから、楽しみを入れつつ、休憩を入れつつ、とりあえずゴールを決めて「ここまで頑張ろうか」と励まして。でもそれすらも「今日はやらない日だから」とか言ってきて。「あ、そうなんだ、やらない日っていうのもあるんだね……」って返すしかない(苦笑)。もう、何が正解なのかも自分でわからなくて、四苦八苦してます(笑)。卒業までには克服したいな。

どんな教員になりたい？

はぎの：二人はどんな教員になりたいと思っていますか？

りょうま：子どもたちにとってという視点では、親しみやすいけれど先生として子どもたちの上に立っている、というのが自分の理想です。あくまでも友達ではなく、悩み事も「先生は大人だから相談したい」「先生の視点でアドバイスがほしい」と思ってもらえたら。あと、職業としての教員という視点でいうと、余裕のある先生になりたい。いま教員の多忙感がしきりに話題になりますが、自分の時間は絶対に確保したいです。

みみ：私は、子ども一人一人を見て、その子の良さを引き出せる教員になりたいです。今は自己肯定感の低い子どもが多いと言われているので、私は子どもたちの良さをたくさん見つけて、褒めてあげたい。子どもたちが「自分なんてどうせ」とか「どうせできないよ」とか諦めてしまうのではなく、子どもたちについてたくさん気付いて、がんばりを褒めて、子どもたちがのびのびと成長できるような学級をつくりたいです。

教育学部の魅力／ここを目指す後輩たちへ

はぎの：教育学部の魅力をアピールしてもらえますか？

りょうま：教員になるにあたっての手厚い支援、サポートを受けられること。附属学校があって1年次から学校現場を見られるし、教職科目が卒業単位にそのままなので戸惑いも少ないです。沖縄の教育の事情や地域的な特色、平和教育の問題などについて授業で知れるのも大きいです。沖縄で先生になりたいのであれば、琉球大学教育学部を薦めたいです。

みみ：みんな仲良くて、何かに取り組むときに協力してできることかな。雰囲気、楽しむときは楽しむ、やるときはやる、という感じで、しかも「やる」となったら教育実習でも模擬授業でも行事の企画でも、誰かに押しつけることはなく、互いに助け合って、一緒にいいものをつくっていこう！って自然になるんですね。仲間どうしで刺激にもなるし、成長し合えるし、いい環境だと思ってます。

りょうま：「迷ってるんだったら来なさい」(笑)。教員はブラック、きつってという言葉に惑わされることもあるでしょうけど、教員に興味があるなら教育学部に飛び込んでほしい。

みみ：教育学部では学校や先生という仕事の真髄を知ることができます。高校までは何かを覚えるだけという浅い学びにとどまっていたけれど、進学後は深く学ぶ機会が増えて、今まで気づかなかったことに気づかされることも多くて、ほんとうに面白いです！

はぎの：力強いメッセージをありがとう。教育学部ホームページ掲載の拡大版では卒業研究の話なども加え、さらに深掘りしたトークになっています。ぜひごらんください！

(注) 学校教育専攻は2年次進学時に教育実践学専修と子ども教育開発専修(略称「子発」)に分かれるが、入試は「専攻」として実施するので、オープンキャンパスも「専攻」で開催している。



本記事は、実際の対談記事のダイジェストです。参加者の発言を一部カットしたり、卒業研究や教育学部の課題などを取り上げたパラグラフを省略したりしています。インタビュー全文を読みたい方は、トークでも触れたとおりHPで掲載していますので、こちらからご覧ください。



教育学部の概要

●教育学部の教育理念

教育学部は、琉球大学の「自由平等、寛容平和」の建学の精神の下、本学のディプロマ・ポリシーに基づき、小学校、中学校、特別支援学校等さまざまな教育現場が抱える多様な課題、また島しょ的地域特性や平和共生等沖縄ならではの教育課題と誠実に向き合い、協働しつつ学び続けることができる教師や教育分野の専門家の養成を目指しています。本プログラムの修了者は、沖縄県をはじめとする全国の学校や教育の現場において、人格・能力共に優れた教員等として活躍することが期待されます。

このような人材を育成するために、本プログラムでは、所定の課程を修め、必要な単位を修得し、次の目標を達成した者に、学士（教育学）の学位を授与します。

- (1) 教職教養と市民的教養を基に、教育の専門家として自律的に行動できる。
- (2) 授業と学びのために必要な教科の内容及び指導法に関する深い理解を形成している。
- (3) 子どもへの理解や学校・学級に関する課題認識に基づき、教育実践を遂行できる。
- (4) 専門家チームの一員として、同僚性を発揮して学校経営に参加するためのコミュニケーション・スキルを獲得している。
- (5) 専修分野に関わる高度な理解や探究法を基盤に、自らの実践的課題を省察し、力量を形成するために学び続けることができる。
- (6) インクルーシブ教育の理念に基づく特別支援教育や ICT 教育、島しょ的地域特性や平和共生等の現代的・地域的教育課題に
向き合い、保護者や地域の住民、他の専門家と共に協働して、問題解決を推進できる。

●アドミッションポリシー（教育学部が求める学生像）

学校教育教員養成課程では、教育という営みの本質を学びつつ、主として学校教育に関わる今日的な問題に真剣に取り組もうとする、次のような人材を求めています。

- (1) 教員として主体性を持ち、子ども及び社会と関わっていきいたい人
- (2) 教育の理論と実践を広く深く学ぶ意欲のある人
- (3) 高等学校での基礎学力を身につけ、思考力、判断力、表現力を持つ人
- (4) 沖縄の歴史的・環境的・文化的・社会的特性を活かしながら、グローバルな視点に立って教育活動に携わりたい人

●募集人員

学部	課程				入学 定員 (名)	募集人員（名）							
						一般選抜	総合型選抜	学校推薦型選抜		帰国 生徒			
						前期日程	大学入学 共通テストを 課さない	大学入学 共通テストを 課さない	大学入学 共通テストを 課す				
教育 学部	学校教育 教員養成 課程	小学校 教育コース	学校教育専攻		140	35	5		10				
			教科教育 専攻	国語教育専修				2					
				社会科教育専修				2					
				数学教育専修				2					
				理科教育専修				2					
				音楽教育専修				2					
				美術教育専修				2					
				保健体育専修				2					
				技術教育専修				2					
				生活科学教育専修				2					
				英語教育専修				2					
				中学校 教育コース		国語教育専修							
						社会科教育専修							
						数学教育専修							
		理科教育専修											
		音楽教育専修											
		美術教育専修											
		保健体育専修											
		技術教育専修											
		生活科学教育専修											
		英語教育専修											
		特別支援 教育コース	特別支援 教育専攻			特別支援 教育専修	8			2			
		計				140	101	5	2	32			

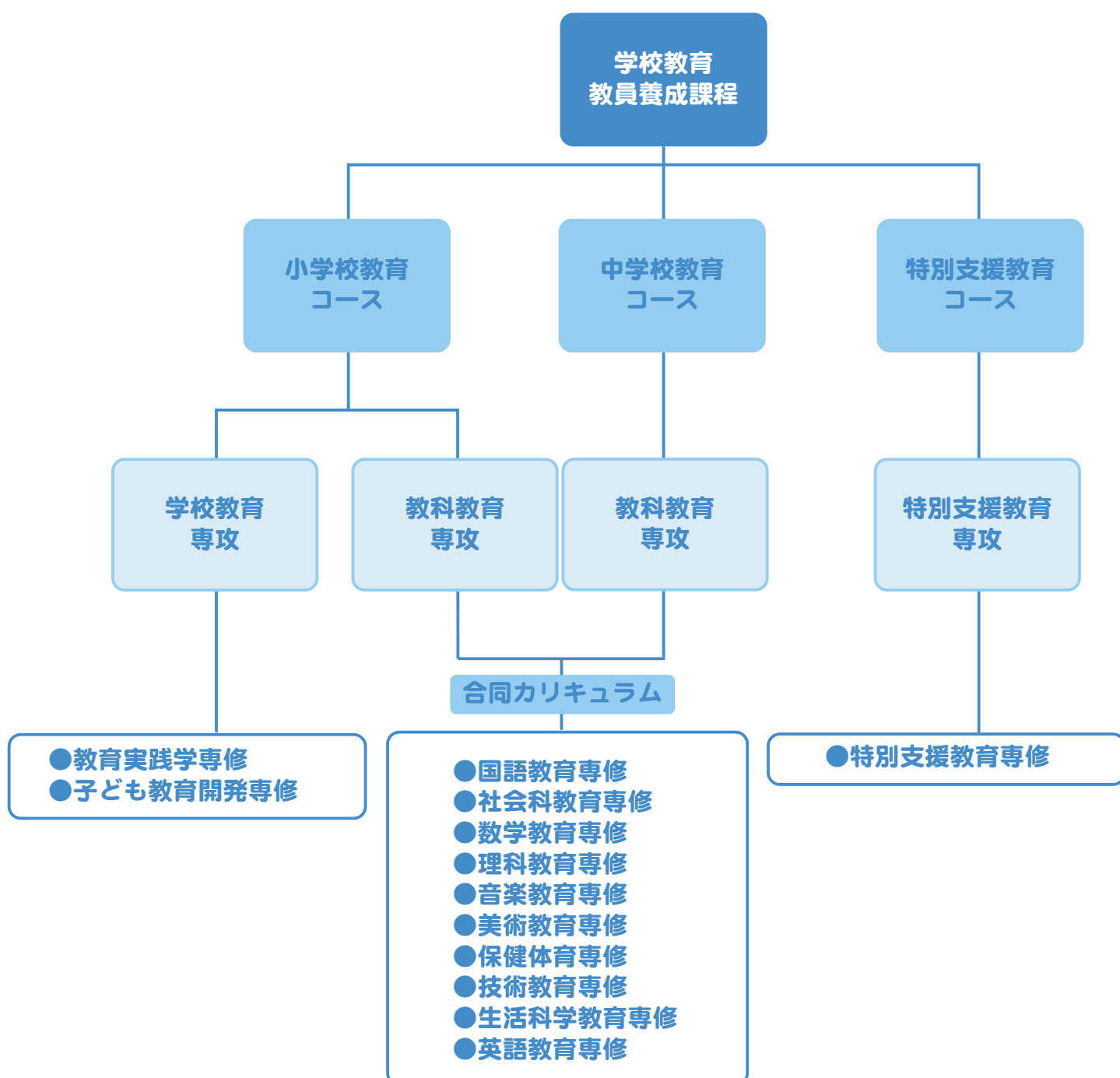
●教育学部の構成

教育学部は、高等教育機関であると同時に教員養成機関です。高等教育機関としては、学士（教育学）という学位を取得する「学士課程」を編成しています。教員養成機関としては、小学校教諭、中学校教諭および特別支援学校教諭の一種免許を取得可能な「教職課程」を編成しています。両「課程」の修了に必要な授業科目が重なっているのが、教育学部の最大の特徴です。

また、本学部は、下記のとおり3つのコースと4つの専攻で構成されています。

入試では小学校教育コース、中学校教育コース、特別支援教育コースに分かれていますが、小学校教育と中学校教育それぞれの教科教育専攻は、教科ごとの合同カリキュラムを組んでいて、入学後は両方の学生と一緒に4年間学んでいきます。

また、学校教育専攻は1年次では同じカリキュラムで学び、2年次からは二つの専修に分かれ、残りの3年間はそれぞれのカリキュラムで学びます。



学校教育教員養成課程について

●子どもの学びと育ちを支える学校教員の養成

琉球大学教育学部は、沖縄県内唯一の教員養成を目的とする学部であり、附属小学校、附属中学校を附属施設としてもち、子ども理解を基礎として、生活面での指導や教科指導ができる実践的な学校教員を育成しています。

さまざまな子どものニーズに対応する力量の形成のために、体験的に子どもを理解する機会を多様かつ系統的に提供し、4年間で教員としての専門性と実践力を身に付けるカリキュラムを提供しています。

●小・中・高校等の複数の教員免許状取得が可能

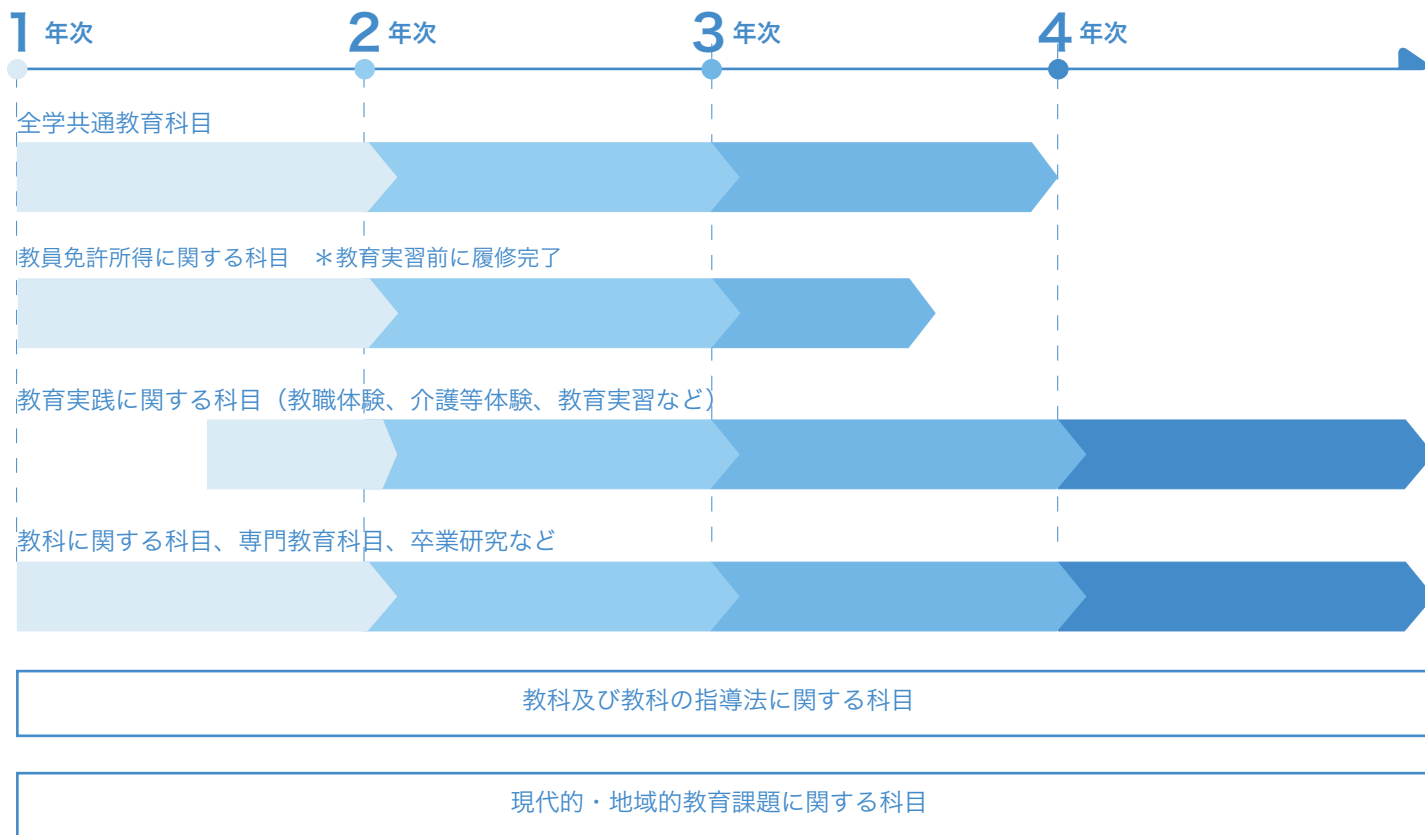
4年間のカリキュラムにより、小学校教育コースは小学校教諭、中学校教育コースは中学校教諭、特別支援教育コースは特別支援学校教諭の一種免許状の取得ができます。さらに、卒業単位以上の科目の履修による、幼稚園、小学校、中学校、高等学校教諭等の一種免許状（あるいは二種免許状）の取得も推奨しています。

複数の免許取得のための学びにより、児童生徒の発達／成長段階を視野に入れながら「いま、付けたい力」を意識した生活面や教科の指導の力量が育まれるというメリットがあります。



カリキュラムについて

小学校、中学校、特別支援学校などさまざまな教育現場が抱える多様な課題、また島嶼的地域特性や平和共生など沖縄ならではの教育課題とも誠実に向き合い、協働しつつ学び続けることができる教師や教育分野のスペシャリストの養成をしています。



コース別取得可能免許状等について

小学校教育コース（学校教育専攻、教科教育専攻）

小学校教育コースでは、卒業単位を取得すること（卒業）により、小学校教諭一種の教員免許状が取得できます。さらに、卒業単位以上の科目の履修による、中学校教諭一種、高等学校教諭一種、幼稚園教諭一種等の教員免許状の取得も推奨しています。実際に教科教育専攻では、それぞれの教科の中学校教諭一種、高等学校教諭一種がよく取得されています。また、学校教育専攻では、幼稚園教諭一種もよく取得されています。

中学校教育コース（教科教育専攻）

中学校教育コースでは、卒業単位を取得すること（卒業）により、それぞれの教科の中学校教諭一種が取得できます。基本的にそれぞれの教科の高等学校教諭一種の教員免許状も取得できますが、地理歴史、公民、工芸、工業の各免許については、卒業単位以上の科目の履修が必要です。さらに、必要な科目の履修による、小学校教諭一種（あるいは二種）、幼稚園教諭一種（あるいは二種）の教員免許状の取得も推奨しています。

特別支援教育コース（特別支援教育専攻）

特別支援教育コースでは、卒業単位を取得すること（卒業）により、小学校教諭一種、または中学校教諭一種のどちらか（基礎資格）と、特別支援学校教諭一種の教員免許状が取得できます。さらに、卒業単位以上の科目の履修による、基礎資格以外の教員免許状の取得も推奨しています。

※取得可能な資格については、全コースにおいて、卒業単位以上の科目の履修により、学校図書館司書教諭の資格取得が可能です。また、美術教育専修においては、必要な科目を履修すれば、博物館学芸員の資格取得も可能です。

教育実習について

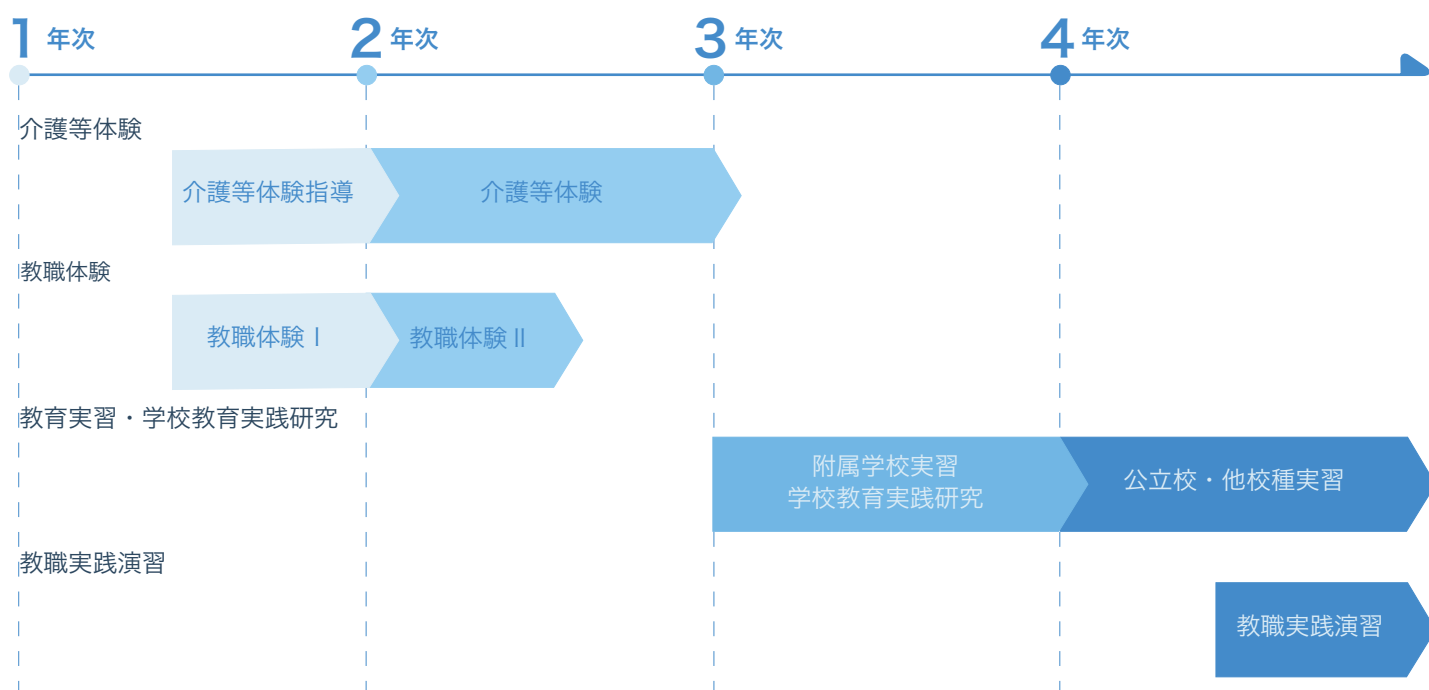
●教育実習のながれ

下図が、教育学部4年間で学生が経験する主な教育実習系科目です。

メインとなるのは、3年次の8月から9月に3～4週間かけて行われる「附属学校実習」です。4月から学級観察や模擬授業が始まり、実習終了後もリフレクションが行われるなど、1年間かけてじっくり学校教員としてのスキルを磨きます。

それ以前の1・2年次にも「教職体験Ⅰ・Ⅱ」（専修によっては別の科目で代替する場合があります）で、授業参観したり先生方を手伝ったりする機会があるなど、多くの現場体験を積めるのが教育学部のカリキュラムの特徴です。

2年次の「介護等体験」および1年次の「介護等体験指導」では、各種社会施設や特別支援学校における、さまざまな支援を必要とする多様な人々との関わり方を学び、4年次の「教職実践演習」では4年間の総括を行うなど、実習系科目の積み上げによって、確かな教育実践力を育む仕組みとなっています。



●教育実習委員長からのコメント

琉球大学教育学部は、教育実習に関して大変恵まれた環境です。大学構内に附属小学校や附属中学校があり、そこで教育学部学生全員が必修の教育実習を行います。このような教員養成課程を持つ大学は決して多くはありません。そのため、児童生徒とは、教育実習期間だけでなく、その事前や事後も授業や学校行事等で関わることができます。

附属学校の経験豊かな先生方が、教員を目指す後輩たちを育てる事を使命とし、真摯に学生と向き合い指導します。授業の機会を得るばかりではなく、教育や子どもの現実の姿、教師としての生き方などに触れてみる機会であり、更には学生個々人が、自分自身の能力や適性を問い直してみる機会ともなります。

皆さんのチャレンジをお待ちしています。



●附属学校実習を通して（在学生アンケートより）

Q.1 附属学校実習を通して感じたことを教えてください。

自分の教科に対する考えや、教育への考え方を、学生同士や現場の教師、そして生徒との関わりの中で考える、大学生活の中で一番有意義な経験だった。

教員の一人として学校現場で体験することで、普段の授業では味わえない実践的な学びや発見が多くあった。

絶対に教師になる！と改めて思えた大学生活の中で1番の経験でした。失敗だらけでしたが、これをバネにもっと成長できると感じる事ができると感じた。

1、2年次までの講義や観察実習とは違い、実際に子どもを目の前にして1人で授業をするのはとても緊張しましたが、子どもの反応を見たり、気づきや問いを授業に生かす方法を肌で感じ、学ぶことができました。

授業を行う難しさや学級経営の大変さなどを感じました。また、1日1日の達成感ややりがいというのを物凄く感じます。

学級経営での声かけの仕方の難しさをかんじました。授業の想定しているものとのギャップ。

Q.2 附属学校実習に向けて、実習開始までにどのようなことを意識しておくの良いと思いますか。

一人の教師として振る舞うこと、子どもの成長を助けるような言動や授業を心がけること。

自分がなぜ教育実習をするのかの意味と、どんな実習にしたいかを意識する。

事前準備や計画性などは当然のこととして、子どもとどう接するか、自分の立ち位置やスタンスなどを決めておくことが重要だと思います。

模擬授業の回数をこなして、タイムマネジメントや予想していない答えに対応できるようにしておく。同じクラスの実習生と交流して仲を深めておくことで、困ったことにお互い支え合って乗り越えることができる。

意識しておくべきことは、「言葉遣い」「あいさつ」「表情」だと思います。子どもは先生の姿をよく見ています。

とにかく楽しもう！って思うことが1番大事かと思います。重荷に感じるときついので！あとは授業の準備は入念に！準備すらも楽しむ心持ちで！

アンケートに答えてくれた
在学生のみなさん、ありがとう！





専修紹介

教育実践学専修	17
子ども教育開発専修	18
国語教育専修	19
社会科教育専修	20
数学教育専修	21
理科教育専修	22
音楽教育専修	23
美術教育専修	24
保健体育専修	25
技術教育専修	26
生活科学教育専修	27
英語教育専修	28
特別支援教育専修	29

つぎは、各専修についてご紹介します。





児童の豊かな＜学び＞を創造し、＜生きる力＞を育成できる小学校教員を養成

教育実践学専修は、小学校段階での全人的人間形成において、学習指導と生活指導を中心として、児童の豊かな＜学び＞を創造することができる小学校教員を養成します。この学修を基盤とし、教科のみならず教科外活動や教科の枠を超えた総合的实践力を発揮することで、豊かな＜学び＞を構築し、子どもたちの「生きる力」を育成できる小学校教員を養成していきます。

小学校教員に求められる実践的指導力を養う機会を提供

当専修のカリキュラムにおいては、学校や地域での協働実践と連携して、学校を取り巻く環境を理解し、子どもと直にふれあい、子どもの考え方や感じ方などを理解する体験的な教育実践経験を早期から系統的・継続的に積み重ね、小学校教員に求められる実践的指導力を養う機会を提供します。

学べる3つの領域

- 系統的・継続的な教育実践経験／教職体験Ⅱ（独自開設クラス）など
- 総合的な指導力の育成／総合的な学習の理論と実践など
- 「豊かな学び」を創造する教師の力量形成／学校教育リフレクションなど

系統的・継続的な教育実践経験＋理論と実践の往還 ＝「豊かな学び」を創る教員の養成

教育実践学専修では、児童理解に基づいた「豊かな学び」を創造し、そのような教育実践を不断に再構成していける教員の育成をめざしています。そのため、系統的・継続的な教育実践経験や、理論と実践の往還的な学びに加えて、離島・へき地教育、道徳教育、総合的な学習、小学校における外国語活動と小学校英語などにも専門的に対応できる総合的な指導力の育成の場を提供します。





子どもの“声”を聴き＜育ち＞を支える資質を持った小学校教員の養成

子どもへの関心と教育の質とを重ねて問うことを通して、子ども一人一人の生活に固有の意義を見出し、社会の支配的秩序や大人の求める子ども観を問い直すことで、子どもの「文化」特有の世界観へのまなざしを養います。子どもの「生活世界」の内と外をつなぐことで得られる多様な地域の素材や知的・人的資源等を生かし、子どもの＜育ち＞と学校づくりを支える持続可能な教育実践を創り出すことのできる小学校教員を養成していきます。

学校内の教育の視点のみならず、子どもが見ている世界について思考を広げ深める授業

自らの体験・経験とも重ね合わせて、子どもの乳幼児期からの成長・発達についての理解を深める授業や、学びの本質の理解につながるよう、多様なフィールドでの聴き合い・語り合う実践的活動を通し、子どもの＜育ち＞を支える新たな共同／協働関係を追求する実践力を培う授業を提供します。

学べる 3 つの領域

●子どもの文化・生活世界 ●幼児の発達と教育 ●地域と学校をつなぐ教育実践

**さまざまな専門性をもった教員が、
みなさんの小学校教員への道をサポートします！**

子どもが見ている世界や、子どもを取り巻く多くのヒト・モノ・コトに関心を持っているみなさん、子どもという視点・姿から、発達と教育の基礎理論をしっかり学びたいと考えているみなさん、学校文化の内だけにとどまらず、子どもの「文化」「生活世界」に宿る多様な声を聴き、人々が育ち合い、学び合う「学校づくり」に興味があるみなさんの「小学校の先生になりたい」という強い希望をサポートするカリキュラムを提供しています。





「豊かなことばの学び」を創りだす人材育成

「豊かなことばの学び」を創りだす教育実践力を養成する専修です。

人は「ことばの力」を支えとして、人生を切り拓いていきます。「ことばの力」の基盤を形成するのが教科「国語」であり、国語教師です。

教科内容学（日本語学、日本文学、漢文学、言語文化論）・教科教育学（学習者中心の国語教育思想と実践）を学び、小中高と見通して「主体的・対話的で深い学び」を生む国語教師としての力量を培います。

理論と実践の往還に基づくカリキュラム

たとえば「ことばの教育フィールドワーク」という講義では、公立小学校で単元「スピーチ わが町じまん」（小学5年）に参加し、導入で大学生がスピーチし、最後に小学生のスピーチを聴き、感想を伝え合う活動を行いました（写真）。

＜実の場＞に参加しながら子ども理解や授業づくりを学びます。

学べる4つの領域

●国語教育学 ●言語文化論 ●日本語学（琉球方言を含む） ●日本文学（古典・近現代）

多彩な卒業論文と、集大成としての

「カルチャースクール by 琉大国語科」

4年間の学びの集大成として卒業論文に取り組み、そこで得た＜知＞を外にも広く公開して分かち合う「カルチャースクール by 琉大国語科」を行います。

テーマは、「言語地図から見る『人』と「ことば」のつながり」「現代に蘇る『伊勢物語』研究」「聞いて、聴いて、訊いて『きく』ことで育む豊かな人間関係」「嫌われものの底力『読むこと』指導と連関させた文法学習」「教科書に載らない名作『春琴抄』」など多彩です。





社会科の素養を活かした、学校教育の諸課題に対処できる人材養成

社会科を得意分野とする小学校教諭や、中学校の社会科、高等学校の地理歴史科および公民科の教諭を目指す人のための専修です。社会科の素養は多岐にわたっているので、広い視野と多様な知識を受け止める心構えが必要です。学校教育の諸課題も多岐にわたっているだけでなく、さらに想定外のことや新たな傾向などが生起するので、柔軟に応用可能な問題解決力が必要です。両者を兼ね備えた教員に成長する可能性のある人を養成します。

独自性・専門性の高い授業

社会科教育専修では、社会科の各分野（地理・歴史（世界史・日本史）・公民（政治経済・倫理・現代社会））に対応した多様な専門科目を提供しています。また、沖縄独自の視点を学ぶ「琉球・沖縄史を学びあう」や、社会調査と教材開発の基礎を学ぶ「社会科教材研究」などの特徴的な科目も必ず履修します。

学べる6つの領域

●社会科教育 ●地理学 ●歴史学 ●政治学 ●哲学 ●社会学

4年間の修学の総決算としての卒業論文

卒業論文では自らの興味関心に即したテーマについて研究し論述します。3年次に本専修の指導教員の担当する「ゼミ」の中から、自分が執筆したい卒業論文のテーマや領域にあわせていずれかを選択し所属します。

3年次ではそのゼミごとの専門領域について学ぶ中で卒業論文作成に至る基礎を身につけ、4年次で卒業論文を仕上げます。

卒業論文の作成は、将来の教員ないし社会人としての自身の生き方を自問する重要な機会となります。





小学校の算数に強い教員、中学校（高校）の数学教員を養成

卒業後に、小学校の算数に強い教員、または中学校（高校）の数学教員になりたい人のための専修です。

1. 数学がすき 2. 数学がよくわかる 3. 数学を愉しく伝えられる 4. 柔軟な思考力をもった、数学教員を養成します。
入学後は数学の授業（講義、問題演習、ゼミなど）がたくさんあるので数学がすきで考えることが楽しめる人には最適です。

数学の基礎に関する幅広い授業

数学教育専修では「数学入門」「微分積分学」「線形代数学」などからはじまって「代数学」「解析学」「幾何学」「確率統計学」の基礎を学ぶ講義と演習（学生が黒板の前で問題をとく授業）があります。

さらに進んだ内容の科目や、4年次に1年間テーマを決めておこなう卒業研究もあります。

学べる5つの領域

●数学教育 ●代数学 ●解析学 ●幾何学 ●確率統計学

卒業後の進路

教員採用試験に1回の受験で合格することは容易でないですが、卒業時に教員免許を取得するので、採用試験に不合格でも臨時採用教員として期限付きで採用される可能性があります。臨時採用教員をやりながら何度か受験して正規採用される人は少なくありません。また大半の理学系研究科大学院数学専攻の入学試験は「微分積分学と線形代数だけ」なので、本専修の学生も努力次第で数学専攻へ転向することも不可能ではありません。





理科教員に求められる専門知識と実践力を有する人材育成

理科系の特定の領域・科目に限定せず、物理・化学・生物・地学の4つの領域・およびその指導法に関する理科教育についてバランスよく学べます。理科の専門知識と科学的な探究能力を土台に授業の実践力を培い、教科指導・教材研究に強い小・中学校教員を養成する専修です。

基礎力を培い、深い専門性を身につける

理科教育専修では、理科の専門教育（物理・化学・生物・地学）を充実させ、実験や野外実習などをとおして、授業実践力を育成するカリキュラムとなっています。卒業研究では理科の特定の分野に関する研究を行い、深い専門性を身につけることもできます。

学べる5つの領域

- 理科教育（教育用教材開発） ●物理（固体物理学・低温物理学）
- 化学（海洋天然有機化学・有機金属化学） ●生物学（植物分類学・動物学）
- 地学（岩石鉱物学・地質学）

多様な卒業後の進路

卒業生の就職先として小学校教員、中学校教員（理科）、高等学校教員（理科）、地方公務員、民間企業、海外日本語教員、日本人学校教員などです。

卒業研究で習得した専門性を深めるために大学院進学を目指す学生も多く、琉球大学、京都大学、九州大学に進学しています。





音楽の専門性と指導力に長けた人材育成、音楽を通し子どもの成長に寄与できる教員養成

音楽は学校教育の中で、子どもの発達や情操の育成に大切な役目を果たしています。本専修では、個人及びグループレッスンや合唱、合奏などの実技系、音楽理論や音楽史、作・編曲法等の理論系の両面から音楽の基礎を学び、幅広い音楽的教養や音楽的技能を身につけていきます。そして、教育の本質や理念に基づいた指導法を学ぶことで、音楽の専門性と指導力に長けた人材を育成し、音楽を通して子どもの成長に寄与できる教員を養成していきます。

音楽教育専修での学びで身につく力

音楽科授業をデザインする力を身につける音楽科教育法、個々のスキルアップや協働して音楽表現することを学ぶ実技系科目、体系化された音楽理論や音楽の成り立ちを学ぶ理論系科目での学びを積み上げながら、教育現場で活用できる幅広い知識、実践力、応用力を身につけていきます。

学べる7つの領域

- 音楽教育 ●声楽・ソルフェージュ ●ピアノ ●管弦打楽器
- 作曲 ●指揮 ●音楽史・音楽理論

音楽教育専修の魅力・卒業後の進路

音楽を通した人との繋がりを大事にしており、授業や発表活動等において、学年を超えたグループ活動を積極的に行っています。そのため、4年間の大学生活を通して、同期だけでなく先輩・後輩の繋がりが深まります。

また、1年間の学習成果発表の場としてホールでの音楽科発表会を行っています。卒業生の多くは教職に就きますが、大学推薦により県外で教職に就く学生もいます。さらには海外の日本人学校に就職する卒業生もいます。





あたらしいものを生み出す、クリエイティビティある人材育成

図工を得意分野とする小学校教諭や、中学校、高等学校の美術教諭を目指す人のための専修です。

新しいものを生み出すということでは、「教育」も「美術」も共に創造的な営みです。

美術教育専修は、専門的な美術の知識、実践力を活かし、多様化する社会において柔軟に対応できる個性的で想像力豊かな人材を育成します。

基礎から応用までしっかり学び、ときには学外での特別授業も！

美術教育専修では、基礎から応用まで充実した授業が整備されています。また、通常授業に加えて、ゲストアーティストによるワークショップや、学外でのアートイベントの企画・運営など、さまざまな特別授業も行われており、幅広い専門性を身につけることができます。

学べる7つの領域

●図工・美術教育 ●絵画 ●彫刻 ●デザイン ●陶芸 ●織染 ●美術理論・美術史

自由な発想による卒業研究

4年次の卒業研究では、1年間をかけて学習の集大成に相応しい内容の作品制作（または論文執筆）を行います。

年間を通じて行われる中間報告を節目としながら、段階を追って自分の表現を深めていき、その成果は毎年2月に開催される「卒業展」で公開されます。

自由な発想による研究内容に応じて、全教員がそれぞれの専門性を活かしながら、協力して指導にあたります。





体育・スポーツを通じて、人間力を育む

保健体育を得意とする小学校教諭や、中学校および高等学校の保健体育教諭を目指す人のための専修です。児童・生徒の発達課題、スポーツ科学や運動文化への深い認識に基づいた保健体育科における教材・授業づくり、指導力の育成、さらに今日的教育課題にも柔軟に対応できる理論と実践能力を持った教員の養成を目指しています。

幅広い専門性を育成するカリキュラム

保健体育専修では、体育学、運動学、学校保健学、保健体育科教育学の専門分野における科学的成果からしっかりと学ぶことになります。また、スポーツにおける運動のメカニズムについて、力学的、生理学的な研究をはじめとして、スポーツの医学的、社会学的、心理学的な研究などの成果から「運動」や「スポーツ」というものを多面的に探求します。

学べる4つの領域

●体育学 ●運動学 ●学校保健学 ●体育科教育学

保健体育・スポーツ科学を探求！

4年間の学びの中で、自分自身が追求したい課題を選択し、研究を行います。テーマは学校教育にとどまらず、健康科学、運動学、体育社会学など多岐にわたります。以下は昨年度の卒業研究です。

- ◇チームスポーツにおけるリーダーシップに関する研究―指導者の語りを手がかりに―
- ◆異なる3つの重さのバットおよび軽量メディシンボールを組み合わせたトレーニングによる打撃パフォーマンス向上効果
- ◇走り幅跳びの着地動作に着目した練習方法の考案とその効果検証
- ◆ Velocity Based Training における速度低下朗行の違いが筋機能に与える影響
- ◇鉄棒運動における片膝かけ上がりの観察的評価基準作成の妥当性の検討





児童生徒の工夫し創造する能力を育む教員を養成

将来、ものづくりやプログラミングが得意な小学校教員、中学校教員（技術科）や高校教員（工業）として活躍したい人のための専修です。豊かな知識と創造力、確かな技能を身に付け、児童生徒の生活を工夫し創造する能力を育む教材教具および教育法を研究開発できる教員を養成します。子どもたちのものづくりに関する興味・関心を喚起し、その知的欲求に情熱をもって応えられる実践的能力に優れた教員を養成します。

ものづくりを通した実習重視の学習活動

技術の世界を、材料と加工、エネルギー活用、情報システム利用、生物育成の面からひも解き解き、ものづくりを通して専門的知識と実践的指導法を学びます。特に実習に重点を置き、例えば、メロンや野菜栽培（栽培）、LED やロボット制御（エネルギー利用）、ビジュアルプログラミング活用（情報）などが学べます。

学べる 6 つの領域

- 技術教育 ●材料加工 ●機械・電気 ●栽培 ●情報・プログラミング
- 環境エネルギー

科学技術のない将来の日本を想像できますか

自ら学ぶ力を養う STEM 教育（理系が軸の 21 世紀型教育）が世界各国で導入され始め、技術とものづくりはその中核です。専修の学生は卒業研究で、4 年間の集大成として創意工夫した教材教具や指導法の開発や実践を行い、卒業後は総じて沖縄県内外の小・中学校教諭（公立、私立）、特別支援学校教諭、海外の日本人学校教諭になっています。そして日本が目指す新たな社会（Society 5.0）に向けて、次世代を担う児童生徒の工夫し創造する能力の育成に貢献しています。





生活を科学的に探究し、生活課題解決に向けて実践できる人材の育成

生活科学教育専修では、生活科学に関する高度な知識と技術を習得し、家庭科という教科の実践的指導力の向上に向けた教育・研究活動を行い、教育現場が必要とする人材（教員）の養成を目指しています。また、一生活者として自立と共生の意識を育み、家庭、地域、社会の生活課題の改善に向けて共に行動できる人材の育成も目指しています。とりわけ、教育・研究のテーマとしては、沖縄の地域や社会の生活課題や教育課題の改善に向けた取り組みを重視しています。

実践的体験的な学習活動を通して学びを深めていきます

生活科学教育専修では、校種の異なる複数の教員免許状の取得を目指す学生のため、4年間の履修カリキュラムを作成し支援しています。また、授業では、実習・実験・演習・ワークショップ・フィールドワーク等を積極的に取り入れ、実践的体験的な学習活動を通して教員としてのスキルアップを支援します。

学べる7つの領域

- 家庭科教育 ●生活経営学 ●衣生活学 ●食生活学 ●住生活学 ●保育学
- 家庭工学及び情報処理

「生活」を軸とした学びができる！

沖縄県で家庭科教員の免許がとれるのはここだけ！

私たちの身の回りには、当たり前としていて実は知らない・深く考えてこなかったことが多くあります。生活科学教育専修では、私たちの生活に関することをより専門的に学ぶことで、新しい発見がたくさんできます。

また、本専修で学ぶ内容は、家庭科の授業だけではなく、学級経営や給食指導・食育など、学校のあらゆる場面において発揮できます。

そして、沖縄県で唯一、中・高等学校（家庭）の教員免許が取得できる専修です。





英語教員に必要とされる専門知識・英語運用能力を育む教員養成

英語教育専修は、英語に関する幅広い知識を備え、英語教育に関する高い専門性を身に着けた英語教員を養成します。カリキュラムには英語教育学、英語学・言語学、英米文学、コミュニケーション学などの領域に関連した様々な授業が組み込まれています。

更には、実際の教育現場を想定した模擬授業や附属学校・公立学校での教育実習を通して、たくましく、人間味あふれる、実践力のあるプロの英語教員を養成していきます。

実践と専門性に富む授業を行います

小学校教育コースでは、英語の基礎的知識と4技能・5領域(話す[発表、やり取り]、読む、聞く、書く)の十分な習得を目指して講義や実習を展開します。また、電子黒板やデジタル教科書を用いた指導法なども学ぶことで、楽しく使える英語が学べます。中学校教育コースでは、4技能・5領域の習得を前提としてさらに発展的な文化理解や多文化的な視点からのコミュニケーションの実践、習得を目指して講義や実習を展開していきます。

そして、どちらのコースでも、小学校と中学校両方の免許が取得可能です。

学べる4つの領域

●英語教育学 ●英語学・言語学 ●英米文学 ●コミュニケーション学

英語を活かした卒業後の進路

卒業後の進路は県内外の小学校・中学校・高等学校教諭、そして海外教育機関職員、地方・国家公務員などです。

卒業生の中には大学院に進学する卒業生もいます。





多様なニーズを持つ子どもに対する教育を行うための教員を養成

特別支援教育専修では、特別支援学校、特別支援学級、通常の学級に在籍する多様なニーズを持つ子どもに対する教育を行うための教員を養成し、特別支援学校教諭一種免許状（知的障害者、肢体不自由者、病弱者）を取得できる沖縄県内唯一の専修です。

また、基礎免許となる小学校もしくは中学校教諭一種免許状の取得もあわせて必須のため、卒業後の進路が広がります。

確かな「実践力」と高い「研究力」を持ち、子どもたちを“輝く未来”に導く教員に

特別支援学校だけでなく、小中学校で包括的な支援が必要な子どもに対する支援プロジェクトを行っています。ゼミでは学生や教員全員が集まって合同で行うことによって、1年次のうちから研究の基本スキルを身に付けることができます。2年次では、一人ひとりが研究テーマを持ち、本格的に研究活動を行うことができます。

学べる5つの領域

- 知的障害者教育 ●肢体不自由者教育 ●病弱者教育 ●発達障害者教育
- インクルーシブ教育

卒業時には“2種類の免許”が取得できる専修

特別支援学校教諭の免許を取得するには、基礎免許が必要となっています。基礎免許とは、幼稚園、小学校、中学校、高等学校の免許のことです。卒業時には、2種類の免許が取得できるのがこの専修の特徴です。

また、特別支援学校教諭免許の取得は、沖縄県の教員採用試験において加点対象になります。更に詳しく知りたい方は、特別支援教育専修のHPも開設しますので、是非ご覧ください。





Q&A

Q1

琉球大学教育学部を選んだ理由は何ですか？



オープンキャンパスでの学科の雰囲気が良かったこと。沖縄で教員になると決めていたため。

沖縄の特色ある自然を体感しながら、地元を離れて一人暮らしがしたかったから。

総合大学というところも大きな魅力。教育学部だけでは無い為、色んな人と関わり、刺激を受けられるかと思ったからです。

附属小・中があり、多くの実践経験をつむこともでき、教育に関する授業が充実しているのではないかと思ったから。総合大学というところも大きな魅力でした。

早期から教職体験があるため多くの子どもに接する機会が増えると思ったからです。

教員一種免許がとれるから。県で唯一特別支援の1種免許が取れるから。小学校と幼稚園の一種免許状が取れるから。

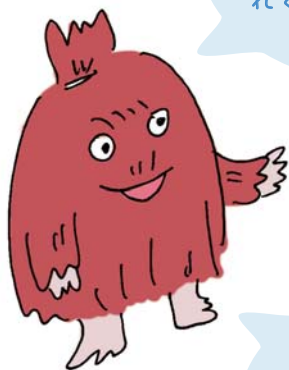
Q2

介護等体験を通して感じたことは何ですか？

介護施設によってどのケアに重点を置いているのかなどが違い、施設それぞれの特色があるのだと感じた。

今まで思ったこともなかった特別支援系の勉強をしたいと思い夢や目標が変化しました。

高齢者の方、障がいを持った子どもたち関わってみないとわからないことがたくさんあると思いました。新しい発見がたくさん得られました。とても楽しかったです。



自分の価値観が変わり、教育というものについて考える糸口になった。

利用者さんに対して自分から働きかけコミュニケーションをとる大切さも学び、それも学校教育において重要なことだと思いました。変化しました。

祖父母の世代よりも年代が上の方たちがたくさんおり、そのような方々と話すことができたのはとても素晴らしい機会だったと感じます。琉球方言を学んだ後に、介護等体験に臨んでいたら、もっと交流が深まったかと思います。

Q3

オンライン授業の印象は いかがですか？

先生が教室で講義する様子を
ビデオカメラで中継するタイプの授
業は、対面授業と感覚が近く、
受講しやすかった。

双方向型のオンライ
ン授業では海外の人との交
流ができたことが新鮮で
した。

zoomでの授業後にYouTubeに授
業動画をアップしてくれる先生がい
て、あとで見返すことができるか
らうれしい。

オンライン授業により
様々なハードウェア・ソフト
ウェアを利用する頻度が増え、
ICT機器への苦手意識がな
くなった。

動画を使ったオンデ
マンド型の授業では、理
解しにくかった部分を繰り返
し視聴するなど、自分のペ
ースで受講できる点が良
かった。

チャットで気軽に質
問ができるオンライン授
業は、対面授業よりもコミュ
ニケーションがとりやす
かった。



Q4

教員採用試験対策・就職活動はどのようにしていますか？ 3年次までに準備しておくことはありますか？

友達と
協力しながら先輩から
引き継いだ or 自分で作った教
材対策用資料を活用している。ま
た、附属実習でお世話になった教
科の先生やゼミ担当の先生など
にも二次対策以降の協力を
お願いしている。

色々な体験をす
る！ボランティアや
アルバイトなどから学
ぶことも多いと思
います。

勉強会グループを
作成し、お互いに分か
らないところがあれば教え
あえる環境で勉強して
いる。

3年次の12月ごろに組
んだ教採対策グループで情報
共有をしています。教えてもら
うことはもちろんですが、人に教
えることで自分の頭にも入っ
てくるので一石二鳥だと
感じている。

教職だけではなく、
それに関わる心理や福
祉などにも触れておく
とより視野が広がって、
いいと思います。

教育に関する新書な
り、ドキュメンタリーなどを
読んだり、見たりしながら、いろ
んな目線で見ることが批判的に
客観視できるような知識を身に
つけておいたら、いろんな選択肢
が出てくると思います。

大学でのおすすめのイベントや課外活動、大学生活で思い出に残っていることは何ですか？

- 琉大祭 ● 体育祭 ● 部活動 ● 1・3研修 ● 新入生歓迎会 ● ビーチパーティー ● 留送会 ● Gut's
- 教職体験 ● フィールドワーク ● コックさん学校 ● SPLEA ● あめんぼキャンプ ● 芝生イングリッシュ
- 専修の行事やボランティア活動 ● 海外での教育支援活動 ● 一人暮らし ● アルバイト
- 先輩や他の専攻、専修の人とも話す機会が増えていろんな人と出会えたこと など

北海道教育大学釧路校との交換留学の制度について

●北海道教育大学釧路校との国内留学制度とは

教員養成系の学生の資質向上を目的に、相互に学生を半年間派遣する国内留学制度です。琉球大学教育学部と北海道教育大学釧路校（教員養成のための単科大学）は、平成16年度から交換留学を行っています。

釧路校の学生は前学期の4月1日～9月30日、琉大の学生は後学期の10月1日～3月31日が留学の期間です。派遣人数は両大学とも10名以内です。

●異なる地域性（自然、文化、歴史）

両大学が立脚している自然・文化などの風土が異なっているので、留学体験で視野を拡大することによって、他者理解や寛容な適応能力などを強化する契機となります。

学校外でのフィールド系授業が充実しており、亜寒帯の自然、釧路湿原、野外体験学習（場合によってはイワナ・ワカサギ釣りなどを含む）、ウインタースポーツなどに接することができます。

また、北方領土に関する学習活動、フレンドシップ事業、フリースクール訪問、へき地校での学びなどもあります。



●釧路校へ派遣された学生は？

琉球大学教育学部の所属専修と同内容に近い専攻に所属して、釧路校の開設科目を履修します。取得した単位は本人の申請により琉大で認定が可能です。条件を満たせば、教職科目、小学校教科の専門科目、中高免許を出す教科専門科目については単位互換を行っています。（※科目の履修、単位の認定については一部制限がありますので、留学前には十分な確認が必要です。）

学生寮か格安の宿舎に住むことができます。学生寮では1日3食、食事をとることが可能です（食費は実費です）。



※本ページに掲載している写真は、2021年度の留学生から提供いただいたものです。

2022 年度に北海道教育大学釧路校に留学した学生の報告書から、印象的な記述をご紹介します。

●北海道で過ごした日々について

仲程優凜奈（英語教育専修）：この半年間は私にとって大きな挑戦であり、大学生活で特に思い出深い経験となりました。北海道の生活は何もかもが新鮮かつ刺激的で、半年という期間があっという間に過ぎました。沖縄とは全く違う自然や文化、人々の価値観に触れ、北海道に行く前に比べて明らかに自分の視野が広がっていると実感しています。なかでも交換留学を通して、人との出会い、繋がり、尊さを身をもって知ることができたのが一番の成果です。半年の間に多くの人と出会い、思い出をたくさん作ることができました。また、始発の電車に乗って北海道内で日帰り旅行をしたり、車で何時間もかけて移動し双眼鏡片手に野生の動物を探したり、ワカサギ釣りや流氷ツワーに参加したりなど、北海道ならではの遊びをたくさん体験しました。そこでは常に自然を身近に感じることができ、その有難さや尊さに気づかされました。

國頭希歩（英語教育専修）：釧路校は、先生と学生の距離が近くて、みんな仲が良いというところが印象的でした。沖縄から来た私たちをみんなで歓迎してくれ、学校内だけでなく、寮生とは一緒に生活をしていく中で仲を深めることができ、釧路の人々の優しく暖かい雰囲気はとても居心地が良く、好きでした。「北海道はでっかいどう」とはよく言ったもので、北海道は本当に広くて、地図上で見ると実際の移動時間が長く、非常に驚かされました。ただ広いだけでなく、いろんな場所に北海道ならではの絶景が広がっており、それは今でも鮮明に思い出せるほどに素晴らしいものでした。

●北海道教育大学釧路校での学業について

上江洲沙優（生活科学教育専修）：釧路校では、少年院へフィールドワークに行ったり、酪農の授業を受けたり、へき地・小規模校の授業を受けたりしました。酪農の授業では北海道の酪農産業がおかれている状況や食育を通して命と向き合うことなどを考え、沖縄で教師になったとき子どもたちに伝えたいことを沢山学べました。へき地・小規模校の授業やフィールドワークの授業は沖縄県と同じような問題を抱えた子どもたちや学習の環境があり、今後の課題解決のヒントになることを学ぶことができました。

仲程優凜奈（英語教育専修）：釧路校では、ゼミ活動や模擬授業の観察、実習報告会など、研究室での活動も多く、活動に取り組む中で新しい知識や多くの学びを得ることができました。学際的な時期には「縁日」の出し物をしたり、12月頃には研究室活動の一つである「冬合宿」に参加したり、先生方とゼミのメンバーで食事に行ったり、と大学の中でもアクティブな活動が多く、常にたくさんの人と関わりながら過ごすことができました。また酪農体験から学ぶ食育の在り方やへき地・小規模校教育についての学習も釧路校だからこそ得ることができた学びであり、私にとってこれから教師を目指すうえで大切にしたい知識や考え方となりました。北海道でいろんな刺激を受けたと同時に、地元である沖縄にももっと目を向ける必要があることを痛感しました。



卒業後、さらに学びたい・免許を取得したい方へ

●高度な実践的指導力を身に付けリーダーシップを発揮できる教育人材を養成

【教育学研究科（専門職学位課程）＝教職大学院】

教育学研究科は現在、専門職学位課程の一課程で構成されています。

この課程には、一般に「教職大学院」と呼ばれる高度教職実践専攻があり、学校マネジメント、教科指導、生徒指導、学級経営などについて、より高度な実践的指導力の修得を目指したカリキュラムを提供しています。

以前の大学院（修士課程）と異なり、修士論文の執筆ではなく、学校現場での教育実践を積み重ねて報告書をまとめることにより、教職修士（専門職）という学位を取ることができます。

この課程を修了した教員は、学校現場でリーダーシップを発揮することが期待されます。



●1年課程で特別支援学校教諭一種免許状を取得

【特別支援教育特別課程】

特別支援教育特別課程とは、幼稚園・小学校・中学校・高等学校のいずれかの教諭の普通免許状をすでに取得している人（取得見込を含む）を対象とした、特別支援教育の専門性を深められる1年間の特別課程です。1年間で、現在取得している免許状を基礎免許として特別支援学校教諭一種免許状（知的障害者、肢体不自由者、病弱者）を取得することができます。学部生とともに、特別支援教育の基礎をはじめ各障害種領域の専門的内容や、通常の学級を含む多様なニーズを持つ子どもへの教育的支援の方法、インクルーシブ教育等について学びます。更に、特別支援学校での教育実習を通して実践力も身に付けることができます。本課程で取得できる障害種領域は、知的障害者・肢体不自由者・病弱者の3領域です。

卒業後の進学・就職 2022年度卒業生（令和5年3月卒業）の就職先

小学校教諭（正規）36名、小学校教諭（臨時）10名、中学校教諭（正規）5名、中学校教諭（臨時）9名、高等学校教諭（正規）1名、高等学校教諭（臨時）2名、特別支援学校教諭（正規）3名、特別支援学校教諭（臨時）1名、幼稚園（正規）1名、幼稚園（非正規）2名、大学院進学10名

その他、公務員・企業などの就職先の例（正社員のみ）

【県内】

- ・沖縄防衛局 ・学校事務 ・糸満市役所 ・沖縄国税事務所 ・沖縄総合事務局 ・豊見城市役所
- ・にしばる保育園 ・おろく琉生保育園 ・珊瑚社スコレ結塾J & S ・N A T T株式会社
- ・hello world 株式会社 ・(株)ネクステージ ・E Y税理士法人 ・西建設 ・PlanDoSee 琉球
- ・フェスタリアホールディングス ・(株)ビーンズラボ ・(株)リコウム ・学習塾ポテンシャル

【県外】

- ・大分県警 ・生活協同組合連合会大学生協事業連合東海地区 ・(株)開隆堂出版 ・(株)ブロックス
- ・(株)ベイストリーム ・AHCグループ株式会社 ・(株)メイコー ・(株)日本テーマパーク開発

私は現在、教員として
特別支援学校に勤務しています。
子どもたちと関わっていく中で教職の魅力
とは、子どもたちの新しい未来を発見できるこ
とです。子どもたちが家でできなかったことが
学校で通っていくうちに、できるようになるこ
とを発見できることが嬉しくてたまりません。
これから教育学部の受験を迎える受験生の
皆さん、自分の夢を追い続けて未来
へ進んでいって下さい。

努力した経験は、
教員となった今でもとても役に立ってま
す。生徒指導、教科指導すべてにおいて
学生時の経験をもとにしてアドバイスを送るこ
とが多くあるためです。未来の輝かしい自分
にたくさん投資して、琉球大学教育学部で
キャリアアップを図って欲しいと
思います。

琉球大学の教育学部では、
熱心な先生方のご指導のもと、非常
に有意義な四年間を過ごすことができました。
意識の高い仲間と共に、切磋琢磨して勉
学に励み、また、様々な行事にも参加でき、本
当に充実していたと強く思います。ここで学ん
だことは、今の教員生活にも大いに活かすこ
とができています。琉球大学でしかできな
い貴重な学生生活を送れるよう、応
援しています。

沖縄県の豊かな自然と共
に教育を学ぶことができます。ま
た、沖縄県の離島・僻地に関する教
育の問題など、現在、沖縄県が直面
している教育の問題についても学
ぶことができます。

卒業後に、出来ることを
組み合わせて活用していくための『材
料作り』だと思って、ぜひ色々なことにチャ
レンジしてみてください。琉大ではそのチャ
レンジできるチャンスがたくさん転がって
いますよ。掴みとれるかはあなた次第
です。頑張ってください！

受験生の みなさんへ (卒業生からのメッセージ)

授業やイベントを通して、学科
を越えて関わるので、教育学部は友達が
沢山できます！また、教員になろうか迷って
いる人も、免許があるということは強みなので、免
許は取っておいても良いかと思います。実習や授業
を通して、教員採用試験を受ける人もいれば、就
職活動をする人もいますので、迷っているの
なら、資格としてとっておいて損は
ないと思います！

特別支援学校で対象となる
障害種や教育現場で課題とされている
特別なニーズを持った子どもたちについてそ
の特徴や障害を持っていることでどのような困
難さが生まれるのかを学生同士で話し合う授業が
多いため、多角的な視点から子どもを見る力をつけ
ることができます。教師になったとき、目の前の
子どもが社会で自立するためには教師として
なにができるのか考える力を身につけた
い！という方にオススメな学科
です！

教職を目指す仲間が
多く集まるので、仲間づくりが
しやすいのは様々な面で役立つと思いま
す。教職に就く、就かないの決断を迫られ、
迷うことも有ると思います。色々な価値観の人が
意見を交わすことに意味があると思うので、
迷った時こそ学部や所属、年齢、性別、職業
に囚われず、色々な人とお喋りして自分の
価値観や、思想など固めていくと
いいと思います。







2023 年 7 月発行

編集 萩野 敦子 廣瀬 等 Titus Spree 吉田 悦治 上村 豊 上地 飛夢 平良 亜弥

本誌で使用している写真は、琉球大学教育学部及び周辺で撮影されたものです。



琉球大学教育学部

〒 903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原 1 番地

TEL 098-895-8317 FAX 098-895-8316

E-mail kigakmu@acs.u-ryukyu.ac.jp HP <https://www.edu.u-ryukyu.ac.jp/>

